

京都地下鉄整備株式会社

第1 法人の概要

1 代表者

代表取締役 中山誠昇

2 所在地

京都市山科区安朱中小路町 15 番地の 4

3 電話番号

075-502-9001

4 ホームページアドレス

<http://kyoto-ss.co.jp/>

5 設立年月日

昭和 56 年 4 月 20 日

6 資本金

40,000 千円（うち本市出資額 22,000 千円、出資率 55.0%）

7 事業目的

- (1) 鉄道車両の整備
- (2) 鉄道施設の整備
- (3) 電気設備の整備
- (4) 不動産の運営及び管理

8 業務内容

- (1) 高速鉄道電力・電気設備点検の監理
- (2) 高速鉄道建築・機械設備等の監理
- (3) 高速鉄道車両の検査・整備等の監理
- (4) 高速鉄道の駅電気設備の監理
- (5) 北大路バスターミナル等の電気・機械設備等の監理

9 所管部局

交通局高速鉄道部管理課（TEL075-863-5213）

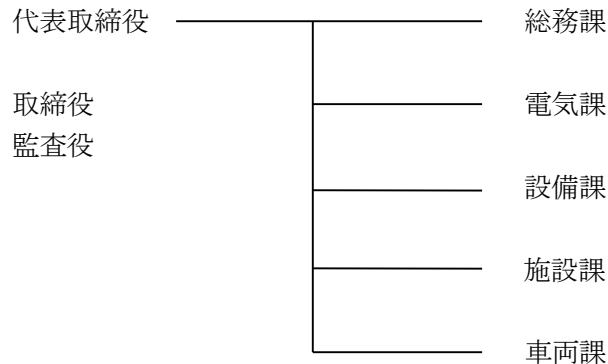
10 役員名等

- (1) 代表取締役社長
中山誠昇
- (2) 取締役
米津好美（交通局企画総務部長）、塩見康裕（交通局高速鉄道部長）
- (3) 監査役
八田泰孝

11 職員数

常勤職員数 40 名

12 組織機構



第2 目標及び実績

1 業務面

(1) 目標及び実績

目標 「監理業務等の的確な遂行による安定的な経営」	
令和5年度の目標	社員の技術及び安全意識の向上を目的として、業務研修及び安全研修を充実させ、より一層市営地下鉄の車両・施設・設備における点検・整備事業の監理業務等を的確に遂行し、安全運行に資することにより、今後も確実な受注を得て安定した経営を行う。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	業務研修及び安全研修において、交通局の研修内容と連携を図り、社員の安全意識をさらに向上させることにより、市営地下鉄の車両・施設・設備における点検・整備時の監理業務をより一層的確に遂行する。

指標	売上高（安定した売上高の維持）						（単位：千円）	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	230,300	240,090	235,800	236,044	232,000		232,300	

(2) 事業実績（令和4年度）

ア 事業の実施状況

(ア) 高速鉄道の電力関係

烏丸線の国際会館・竹田間 13.7 キロメートル 15 駅と東西線の六地藏・太秦天神川間 17.5 キロメートル 17 駅、全線 31.2 キロメートル 32 駅の電気室、変電所、電車線路、電力線路等について、整備・点検に係る監理業務及び修繕業務を行った。

(イ) 高速鉄道の車両関係

烏丸線車両 120 両、東西線車両 102 両を対象に、所定の定期検査等の作業に係る監理業務を行った。

(ウ) 高速鉄道の駅施設関係

建築・機械・昇降機・駅電気設備等の定期検査に係る監理業務や修繕業務を行った。

イ 当期の損益

令和4年度は、前年度と比べ、売上高が 404 万円減少し、2 億 3,604 万円となった。これは、東西線の車両関係において、当期が全般重要部検査の対象となる編成数が例年の 4 編成から 5 編成となる年度であり増額となったものの、それ以上に、烏丸線車両の関係で、車両の新造に伴い全般重要部検査の対象となる 2 編成が廃車されたこと、駅電気設備の関係で駅務機器のうち券売機・精算機等についての立会業務が業者の責任施工となったこと及び烏丸線の行先案内表示設備が更新のため今年度は対象外となったこと、さらに、各監理業務において、修繕業務の発生が前期よりも少なかったことにより減額になったことによるものである。

当期の損益は、前年度と比べ、69 万円減少し、203 万円となったが、5 期連続して黒字と、安定した経営となっている。

ウ 今後の課題

引き続き、収支均衡の維持に努め、安定的な経営を目指していく。

また、質の高い監理業務の遂行には、経験豊富な技術社員の存在が必須条件であることから、優れた人材の安定的な確保に努める。

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 「安定的な経営」	
令和5年度の目標	事務所の照明にLED照明を採用する等、可能な限り経費の抑制に努める。また、業務研修及び安全研修を充実させ社員の技術及び安全意識の向上を図り、的確な業務遂行により確実な受注を得て売上高を確保し、安定的な経営を行う。
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度 の目標	監理業務を的確に遂行することにより確実な受注を得る。また、消費税等の電子申告をはじめ各種手続きにおいてICTの活用を検討し、経費の削減に努め、安定した経営を行う。

指標	決算における当期純損益金額（収支均衡の維持）						(単位：千円)	
目標と実績	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
	490	2,727	1,375	2,031	210		20	

主要財務数値	(単位：千円)							
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)
経常収益	230,310	240,095	235,805	236,377	232,080		232,500	
経常費用	229,500	236,742	233,900	233,890	231,600		232,300	
当期経常増減額	810	3,353	1,905	2,487	480		200	
当期純利益	490	2,727	1,375	2,031	210		20	
資産合計	-	229,674	-	231,875	-		-	
負債合計	-	25,713	-	25,883	-		-	
純資産合計	-	203,961	-	205,992	-		-	
うち累積損益額	-	192,761	-	194,792	-		-	

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R3 決算	R4 決算	R5 決算 (※)	R6 予算
委託料	高速鉄道等の施設、車両の点検整備等の監理	264,099	259,648		271,392

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標 「安定した人材確保」	
令和5年度の目標	<p>交通局と連携するとともに民間会社からの出向を活用することで、業務運営に必要な知識・技術・経験を有する人材を確保する。</p> <p>また、地方公務員法改正に伴う定年引上げを考慮し、高年齢雇用従業員の定年及び退職延長期間の引き上げについて引き続き検討する。</p>
令和5年度 の取組結果 (※)	
令和6年度の目標	<p>地方公務員法改正に伴って交通局職員の定年が引き上げられたことによる影響を注視しながら、交通局や民間会社等とより一層連携を図り、業務運営に必要な人材の確保に努める。</p> <p>また、高年齢雇用従業員の定年年齢の引き上げについて、引き続き検討する。</p>

指標	人員体制の維持						(単位：人)	
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)
	42	42	42	41	42		42	

第3 令和5年度の経営評価（令和4年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>令和4年度決算においては、前年度と比較し、東西線車両に係る修繕費用が増加した一方、その他全ての委託業務の修繕費用が減少したことから、収益は減少した。しかしながら、できる限り経費の抑制に努めた結果、当期純利益は、前年度より下回ったものの、引き続き、黒字決算を維持できたことは評価できる。</p> <p>また、これまで、適正な人員配置・効率的な業務運営を推進されるとともに、質の高い人材を安定的に確保できるよう努めてこられた。令和4年度においては、年度途中で身体的な理由により2名の自己都合退職者があったものの、交通局との連携や関連民間会社からの出向等を活用し、1名を補充された。もう1名については、人数の少ない職種であったため、補充には至らなかったが、業務運営に必要な人材を確保できるよう努められた。</p> <p>今後も引き続き、さらなる経費の抑制を推進するとともに、的確な業務遂行により確実な受注を得るなど、収支均衡の維持に努め、安定的な経営に向けて取り組んでいきたい。</p>
-----	---

事業面	<p>京都地下鉄整備株式会社は、高速鉄道の車両関係や電力設備の保守管理を行うにあたり、外注先が多岐にわたり現場作業が輻輳することから、交通局に代わって総合的な工程管理と現場作業の管理を行うことを目的として、設立された。</p> <p>令和4年度においても、高速鉄道の電力関係、車両関係、駅施設関係の点検、整備に係る監理業務、修繕業務に取り組まれている。高速鉄道の運行に不可欠な車両や電力設備の保守に係る監理業務を、知識と経験が豊富な交通局OB職員や民間会社からの出向等を活用することにより低コストで行っており、高速鉄道の安全な運行を維持するという特殊性の高い業務の担い手として、交通局との強い連携が求められる中、高速鉄道事業の安全運行に寄与している。</p> <p>今後も引き続き、本市の高速鉄道事業における車両・施設・整備における保守管理や更新時の監理業務等を的確に遂行するために、質の高い技術力の確保や経費抑制に努め、安定した事業運営を行っていただきたい。</p>
-----	--

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>コロナ禍であっても、5期連続して黒字決算となっており、安定した経営状況を継続している点は評価できる。安定した経営状況を維持するためにも、高度な技術を有する人材を育成又は獲得することが重要であることから、一層の取組を期待している。</p> <p>一方、当該団体の主たる委託元である京都市交通局の地下鉄事業は3期連続で赤字決算であり、厳しい財政状況が続いている。昨年度に引き続き、経費節減や専門人材の育成等に取り組み、外郭団体としての役割を一層果たしていただきたい。</p>
--